

## 第34回

九州地区国立大学間合宿共同授業

「今 共生するために大学で何を学ぶか」

平成22年度前期

日程：9月2日(木)～5日(日)

# 学修の手引き

## 1. 本授業の趣旨について

本授業は、九州地区の国立大学の学生と教員が一堂に集まり、寝食を共にしながら研摩することによって、学生と教員ならびに大学間の交流を深め、かつ、毎年度設定される同一テーマについて多面的な授業を展開することを目的としています。そして、学生自身が、大学で学ぶべきことについて、どのように学んでいくべきかについて、主体的に考える場を提供しようとするものです。

## 2. メインテーマおよび学生フォーラムテーマについて

平成 22 年度メインテーマ：『今 共生するために大学で何を学ぶか』

平成 22 年度学生フォーラムテーマ：『私が共生するために学ぶこと』

少年期から青年期は「自立」を探る時期ですが、真の自立のためにも自らの個を確認するだけでなく、個と個の「共生」にも十分配慮しなければなりません。さらに、現在、個人レベルの問題から地球規模の問題に至るまで、様々なレベルで「共生」を考える必要がある時代となっています。

そこで、今年度の九州国立大学間合宿共同授業においては、メインテーマを『今 共生するために大学で何を学ぶか』と設定し、学生と人生と学びの先達である教員が同じ時間を共有してとことん突き詰めて考えてみることを通して、「共生」という問題についての意識を深め、自己分析を行い、大学における自らの「学修」について捉え直すことを目指します。

この修めて学ぶという「学修」は、教わった知識の積み上げ等を土台とした、予測出来る事象へのパターン化された対処の仕方を学ぶいわゆる「学習」とは異なります。それは、自分なりに突き詰めて考え抜いた経験とその経験を通じて形成した知識によって、他者の視点を含んだ様々な視点から多面的に物事を捉えることができる自分、予測できない新しい事象に対しても根拠のある柔軟な判断を可能とするような自分を作っていくための学びを意味します。

学修によって培われる力は、これからさらに多様化・複雑化・高度化していくであろう現代の社会で暮らしていく上で、そして、今後、温暖化対策にみられるような解決法が明らかではない様々な課題に対して、多様な立場の個が協同して取り組んで行かねばならない時代において、

正に必要なようになってくるものです。

最終日に開催される全学生による討論の場である学生フォーラムのテーマとして、今年度は『私が共生するために学ぶこと』を設定しました。身近な人間関係から世界で起きている様々な問題まで「共生」から想起されることは様々なレベルで多岐にわたります。例えば、個人と個人、若い世代と高齢者、ハンディキャップを持つ人と健常者、人間と自然環境、日本経済や政治と国際社会、国家群と国家群、などにおける共生が考えられるでしょう。

「共生」とは、本来は生物学の用語で「異種の生物が行動的・生理的な結びつきをもち、一所に生活している状態」（『広辞苑 第六版』から引用）などとされ、クマノミとイソギンチャクの関係や植物と昆虫の関係がよく例としてあげられます。生物学では、「AもBも双方が利益を得る関係」を相利共生、「AはBから利益を得るが、BはAに影響されない関係」を片利共生といい、さらに「AはBから利益を得るが、BはAから害を受ける関係」を片利片害共生（あるいは寄生）という場合があります。

人間と自然環境との関係は、必ずしもAとBに二分できる関係ではありませんが、温暖化やオゾン層の破壊、砂漠化、熱帯雨林の減少と生物多様性の危機などの様々な地球環境問題が取り沙汰されている現代において、生物学の用語としての片利共生にもなっていない側面がありそうです。

「共生」ということばを、人間社会や地球生態系などに関して用いた場合、例えば、人間と人間の関係であれば、お互いの自立と個性、立場の差異等を尊重しつつ、共存していこうとする関係が「共生」することだと言えるかもしれません。

最終日の学生フォーラムでは、個と個、個と社会、個や社会と自然、国と国といった様々なレベルにおける「共生」という問題について、「ひとり一人は共生をどのように捉え、そのために大学時代に何を学ぼうとしているか」を具体的テーマとし、全員で考える時間を共有し合うことで、これまでの自分についての振り返りにとどまらない、今後の大学における自らの学修の展望を見出せるような成果を目指します。

### 3. 事前学修について

合宿共同授業の履修学生は、各大学において担当教員による事前指導を受け、事前学修を行います。課題レポートの作成等を通じて自らの考えを整理し、他の学生のレポートを読んでコメントを作成し、関連事項の調査を行う等、合宿での講義の受講と学生フォーラムにおける議論の準備をします。

#### 3-1. 合宿までの流れ

- ・履修学生は、各大学の授業担当者による指示を受け、課題テーマについて「レポート1」を作成し、各授業担当者に提出します。
- ・当番大学が手配して、「レポート1」を学生間で交換し、学生間で閲覧します。各学生は、閲覧した他者の「レポート1」に対して「コメント」を作成し、各授業担当者に提出します。学生1人あたり2件程度のレポートを担当します。
- ・自身の「レポート1」についての「コメント」を参考にして、「レポート1」を修正した「レポート2」を作成し、各授業担当者に提出します。
- ・このようにして、自身の意見および他者の視点を参考にして修正した「レポート2」は、合宿学修の際の重要な教材として、特に3日目の「グループ活動③ 班別討議」および最終日の「学生フォーラム」で用いることになります。
- ・「レポート1」、「コメント」および「レポート2」の書式に関しては、4, 5ページで説明します。これらの提出物の締切日については、各大学の授業担当者から指示を受けて下さい。

#### 3-2. 「レポート1」の作成について

「レポート1」、「レポート2」の課題は以下の通りです。本冊子『学修の手引き』1ページ目の「2. メインテーマおよび学生フォーラムテーマについて」の説明も参考にして下さい。

「共生」という問題には、個と個の問題から個と社会、個や社会と自然、国と国の問題に至るまで様々なレベルがあります。学生フォーラムテーマ『私が共生するために学ぶこと』に関連して、「私は共生をどのように捉え、そのために大学時代に何を学ぼうとしているか」について、具体的に記しなさい。

各大学の授業担当者から、補足説明やサブテーマの指示が与えられる場合があります。なお、レポートのタイトルとして、各自の考えに応じた具体的なタイトルを付けて下さい。このタイト

ルは、閲覧した他の学生による「コメント」を受けて、「レポート2」を作成する際に、より適切なものに書き換えることを認めます。

レポートの作成に際しては、「コメント」を作成する読み手の存在をよく意識して、自らが取り上げたテーマに対する一方的な解釈や、無理な論理展開に十分に気をつけ、関連事項については文献その他により調査するなどして確認し、具体的な裏付けのある情報に立脚して、議論を進めるように努力して下さい。調査し、考えを整理し、文章化し、推敲していく過程で、自身の考えが次第に明確になって行くことでしょう。

### 3-3. 「コメント」の作成について

他者のコメントを読んで自身とは異なる視点等を知ることは、しばしば、レポート作成者に新たな気付きをもたらし、レポート作成者が自身の考えを整理して深く突き詰めることに役立ちます。閲覧を担当した「レポート1」について、肯定的コメント、否定的コメントに関わらず、そのレポートの作成者の思考過程を支援することができるような、(プラスとなる)有意義なコメントを作成するように努めましょう。

レポートの閲覧とコメントの作成に際して、コメント作成者が自分にとって新たな視点だと感じたこと、知らなかった知識や不確かにしていただけると感じた点などについては、積極的に文献その他により調べ直して、突き詰めて考えてみることで、コメント作成者自身の考えも深まっていくことでしょう。

### 3-4. 「レポート2」の作成について

自身の「レポート1」についての他者の「コメント」を参考にして、「レポート1」を加筆・修正し、事前学修のまとめとして「レポート2」を作成します。「コメント」に記載されている全てに対応して「レポート2」を作成することは困難ですので、自身にとって的確な指摘だと思われるものに的を絞って「レポート2」を作成します。

「レポート2」の最後には、取り入れたコメントに対してどのように「レポート1」を改訂したか、あるいは、取り入れなかったコメントの理由等について、つまり改訂の要点について記載して下さい。(改訂の要点は、次ページの指定書式の通り6行以内)

### 3-5. レポートおよびコメントの書式

#### (1) 「レポート1」および「レポート2」の書式について（次ページも参照のこと）

- ・ Microsoft Wordファイル  
(他の文書形式やプリントアウトでの提出については、各大学の担当教員にたずねること)
- ・ 用紙は、A4紙 縦置き. 文字は、横書き.
- ・ 余白は 上:15 mm 下:15 mm 左・右:25 mm
- ・ 1行目に、大学、学部・学科、学年、性別(男・女)、氏名を書く.
- ・ 2行目は、空ける.
- ・ 3行目の中央に、タイトル. 4行目の中央に、ハンドルネームを書く.
- ・ 5行目は空ける. 6行目からレポート本文とする.
- ・ フォントは、明朝体で10.5または11ポイント. 各行43文字前後で、30行以内とする.
- ・ 「レポート2」については、本文の後に6行以内で、取り入れたコメントと取り入れなかったコメントについての要約(改訂の要点)を加えてください.
- ※ 1行目の大学、…、氏名は、性別も含めて、宿泊の部屋割り作成やグループ編成に必要な情報です.
- ※ 他者の「レポート1」を分担して閲覧し、コメントを作成する際には、氏名などが記載された1行目を覆って、ハンドルネームでやり取りします.
- ※ 「レポート1」、「レポート2」ともに、上記レイアウトで、1ページにおさめます.

#### (2) 「コメント」の書式について

- ・ Microsoft Wordファイル  
(他の文書形式やプリントアウトでの提出については、各大学の担当教員にたずねること)
- ・ 用紙は、A4紙 縦置き. 文字は、横書き.
- ・ 余白は 上:15 mm 下:15 mm 左・右:25 mm
- ・ 1行目に、大学と氏名を書く.
- ・ 2行目は、空ける.
- ・ 3行目の中央に、「○○さんへ、□□からのコメント」と書く. ○○はレポート作成者のハンドルネーム. □□はコメント作成者のハンドルネーム(自身のレポート1作成時と同じもの).
- ・ 4行目は空ける. 5行目からコメント本文とする.
- ・ フォントは、明朝体で10.5または11ポイント. 各行43文字前後で、36行以内とする.
- ※ 1行目の大学と氏名は、ハンドルネームとの対応に必要です.
- ※ 上記レイアウトで、1ページにおさめます.



## 4. 合宿学修のプログラム（概要）

**実施期間：9月2日(木)～5日(日)**

[開講式] 第1日目 15：30

合宿共同授業の目的と意義を再確認します。

[当番大学特別講義] 第1日目 16：00～17：30

当番大学の講師が合宿学修の導入としての講義を実施します。

[グループ活動①] 第1日目 20：00～21：30

グループでの活動を円滑に行うために、グループ内の学生同士の対話の機会として設定します。メインテーマ『今 共生するために大学で何を学ぶか』に沿って、主に第1日目の特別講義の内容を題材にグループ活動を行ないます。グループの学生メンバーは当番大学が決定し、合宿期間を通じて固定します。

[講義A・B・C・D] 第2日目 9：00～17：00

大学における学修について、学生のみなさんが自ら自己分析を行い、学修を捉え直して、学修の意味を模索する手掛かりを提供することを目的として開講します。メインテーマ『今 共生するために大学で何を学ぶか』を考慮しながら、各大学の担当講師の専門分野・研究分野を主な題材として、講義を実施します。

学生は、各講義の終了前に設けられる10分程度の時間で、配布の指定用紙に講義メモ（質問と、なぜその質問を思いついたか等）を作成して提出します。この講義メモは、第2日目の「グループ活動②」と「オフィスアワー」で用います。

講義担当 当番大学特別講義 佐賀大学

講義A 福岡教育大学

講義B 九州大学

講義C 長崎大学

講義D 琉球大学

**[グループ活動②] 第2日目 18:30~20:00**

グループごとに、各自が持ち寄った講義A~Dの講義メモをもとに、オフィスアワーで講師に対して問い掛ける内容を学生が議論し、決定します。

**[オフィスアワー] 第2日目 20:00~21:30**

各講師と学生の交流、および、講義成果の定着を目的として開講します。各講師は、学生からの質問や学生が提出した講義メモから、講義で伝え切れなかったと判断する事柄についての補足説明をオフィスアワーで行います。

**[グループ活動③ 班別討議] 第3日目 9:00~12:00**

グループに分かれて、最終日の学生フォーラムでグループとして発表する内容を議論し、決定します。各自が事前学修のまとめとして作成してきた「レポート2」をもとに、学生フォーラムテーマ『私が共生するために学ぶこと』について、議論をします。学生フォーラムでの発表が独り語りにならないように、そして、同じ発表内容の繰り返しで学生フォーラムが冗長にならないように意識して、グループ内でしっかりと模擬討論をして下さい。

学生フォーラムにおいて全体の議論が発展していくようなインパクトのあるテーマをグループ内で選定することや、グループのメンバーそれぞれの個性を引き出すような発表の仕方を工夫することも大切となります。

**[大学間FD（教員）] 第3日目 9:00~12:00**

参加大学の教職員間の交流、および、合宿共同授業や教養教育(全学教育)についての意見交換を目的として開催します。

**[課外授業] 第3日目 12:00~17:00**

グループ活動や交歓会で意見を交わしていない学生同士が交流する機会として設けます。学生全体の凝集性を高めることが、課外授業の目的のひとつです。もうひとつの目的は、自由で闊達な学生フォーラムに備えて、集中的な屋内学修で閉じこもりがちな思考を自然の中で開放し、心身ともにリフレッシュすることです。課外授業では、バスハイクを予定しています。

#### [懇親会] 第3日目 19:30~21:30

懇親会は、学生が大学ごとに企画し準備した出し物で構成される交流の場です。合宿におけるプログラムも、もはや、翌日の学生フォーラム等を残すのみです。合宿が終わった後の大学間・学生間の交流が話題になるのも、第3日目の懇親会です。

#### [学生世話人打合せ] 各日の夜

合宿学修を可能な限り学生の自主運営とするために重要な役割を担うのが、学生世話人打ち合わせです。当日の反省点、翌日の運営のポイント等について、各日の夜に打合せを行います。各大学の学生世話人(各2名ずつ計10名)が、学生達からの提言などを持ち寄って、各プログラムの実施に関する最終検討を行います。学生世話人は、申し合わせたこと、予定の変更点等について、学生に伝えます。

#### [学生フォーラム ～私が共生するために学ぶこと～] 第4日目 9:00~11:00

全学生による学生フォーラムテーマをめぐる発表会(全体討議)です。学生フォーラムテーマ『私が共生するために学ぶこと』に関して、前日の「グループ活動③」における班別討議での議論と検討をもとに、各グループが1つないしは複数の考えを発表し、学生全員で議論します。

議論に参加することを通して、各自が『私が共生するために学ぶこと』を明確に意識できるようになることを目指します。様々な「共生」の捉え方や、「学ぶこと」をめぐる議論が期待されます。そして、過去の振り返りにとどまらず、この授業を終えた次学期からの大学での学修が、学生それぞれにおいてどのように変化するか、今後の予想するところを交換します。

なお、この学生フォーラムテーマは、本授業のメインテーマ『今 共生するために大学で何を学ぶか』を、学生のみなさんの立場から読み直したものです。本授業の総仕上げとなるこのフォーラムを通して、『私が共生するために学ぶこと』をしっかりと確かめてください。

#### [振り返り] 第4日目 11:00~11:30

学生フォーラムを終え、メインテーマ『今 共生するために大学で何を学ぶか』、学生フォーラムテーマ『私が共生するために学ぶこと』を念頭に置いて、本授業についての感想文を各自が作成します。

## 5. 事後学修について

事前学修と合宿学修を終え、それらの経験を経て、本授業に関する事後レポートとして「レポート3」を作成し、各大学の授業担当者に提出します。「レポート3」の書式や提出期限等については、各大学の授業担当者から指示を受けて下さい。

「レポート3」は成績評価の対象とはなりません。本授業を通して変化したであろう「共生」についての自らの考えをしっかりと整理しておくため、そして、今後の各大学における自身の学修への取組みについて自分の考えを記録しておくために作成します。事前学修で作成した「レポート2」までは、起・承・転・結の「結」の部分を明確にできなかった人もいるかも知れません。合宿学修を終えた今はどうでしょうか。そして、「レポート3」に記した内容を、半年後に再確認してみることも意味があることでしょう。

第34回 九州地区国立大学間合宿共同授業 日程表(平成22年度)

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23																																																																	
9月2日(木)	移動・車中オリエンテーション																			集合・受付	開講式	当番大学 特別講義 (大研修室)	休憩	夕食・交歓会 (食堂)	グループ 活動①	自由時間/ 学生世話人 打合せ (研修室1)	消灯・就寝																																																								
9月3日(金)																				起床	朝食 (食堂)	準備等	講義A (大研修室)	休憩	講義B (大研修室)	昼食 (食堂)	講義C (大研修室)	休憩	講義D (大研修室)	講義オリエン テーション	夕食 (食堂)	グループ 活動②	オフィス アワー	自由時間/ 学生世話人 打合せ (研修室1)	消灯・就寝																																																
9月4日(土)																				起床	朝食 (食堂)	準備等	グループ活動③ 〈班別討議〉 /大学間FD(教員)		課外授業(バスハイク・弁当)		自由時間	夕食 (食堂)	懇親会準備	懇親会 (食堂)	自由時間/ 学生世話人 打合せ (研修室1)	消灯・就寝																																																			
9月5日(日)																				起床	清掃	朝食 (食堂)	準備等	学生フォーラム 〈全体討議〉	振り返り	閉講式	昼食(弁当)	解散																																																							
第一日目																				9月2日(木)	第二日目																				9月3日(金)	第三日目																				9月4日(土)	第四日目																				9月5日(日)